

令和5年度事業計画

1. 文化財の研究事業

文化財調査業務、保存処理業務等の中で課題となった問題点や業務の過程で蓄積されたデータを基礎に、そこから生まれた着想、着眼点を発展させた研究活動や受託研究事業を行う。また、他機関との連携協力による研究活動など対外的な研究交流活動も積極的に進めるほか、研究成果の還元は学会、研究会等での発表・報告を行う。

科学研究費補助金

当研究所に所属する研究員は科学研究費補助金の出願が可能であり、積極的に申請して文化財に関する研究活動を進めている。科学研究費は研究者に対する補助金であるが、その管理はその所属機関に任されている。また、補助事業の実施に伴う研究機関の管理等に必要な経費として、科学研究費については直接経費の30%が科学研究費間接経費としてその所属機関に措置される。

令和5年度の科学研究費補助金は、継続・新規研究課題として15件が内定している。

(1) 継続研究課題

基盤研究(A)補助金

「出土金属製文化財の保存処理に使用された樹脂の寿命予測について」

令和2年度～令和5年度 植田直見 35,800千円(研究期間直接経費合計額)

「地球温暖化による劇的環境変動に適応した石造文化遺産の調査・保存法の総合的研究」

令和4年度～令和7年度 田邊征夫 32,200千円(研究期間直接経費合計額)

基盤研究(B)補助金

「保存処理に起因する出土木製品の強度低下について—調査と対策—」

令和3年度～令和7年度 川本耕三 13,800千円(研究期間直接経費合計額)

「中性子非弾性散乱法による出土琥珀の産地推定」

令和4年度～令和7年度 山口繁生 12,700千円(研究期間直接経費合計額)

基盤研究(C)基金

「古代中世東アジアにおける服装の伝播と地域性に関する研究—髪型と装身具を中心に—」

令和2年度～令和5年度 木沢直子 3,300千円(研究期間直接経費合計額)

(進捗状況遅れの為、延長)

「寺院伝来の文献史料および文字史料の総合による中近世寺院史料学の構築」

令和2年度～令和5年度 三宅徹誠 31,900千円(研究期間直接経費合計額)

「天然素材から合成素材へ—現代歴史資料の保存に関する研究」

令和2年度～令和5年度 金山正子 2,800千円(研究期間直接経費合計額)

(進捗状況遅れの為、延長)

「武器・武具の祭祀利用の受容と展開」

令和3年度～令和5年度 塚本敏夫 3,300千円(研究期間直接経費合計額)

「膠着剤のオリジナルな姿を後世に遺せるか—大豆系膠着剤の可逆的な処理法を探る—」

令和4年度～令和6年度 大橋有佳 3,000千円(研究期間直接経費合計額)

「木製品の構造と機能の調和に関する実証的研究ー工学的解析を用いてー」
令和4年度～令和7年度 桃井宏和 3,200 千円（研究期間直接経費合計額）

「図化困難資料の活用を目指した3D データ取得・編集・出力に関わる研究」
令和4年度～令和6年度 初村武寛 3,200 千円（研究期間直接経費合計額）

若手研究

「中世木札文書の史料学的研究」
令和元年度～令和5年度 服部光真 1,900 千円（研究期間直接経費合計額）
（進捗状況遅れの為、延長）

「城郭石垣の構築に用いられた石工技術の基礎的研究」
令和元年度～令和5年度 坂本 俊 2,900 千円（研究期間直接経費合計額）
（進捗状況遅れの為、再延長）

「水損した民俗文化財における鉄汚染被害の解明と対処方法の構築」
令和2年度～令和5年度 金澤 馨 3,100 千円（研究期間直接経費合計額）
（進捗状況遅れの為、延長）

(2) 新規研究課題

基盤研究（C）基金

「袋中良定開創寺院の総合調査による所蔵資料の研究資源化」
令和5年度～令和7年度 植村拓哉 2,300 千円（研究期間直接経費合計額）

2. 文化財の調査・整理事業

文化財調査修復研究グループ

人文科学担当

総本山長谷寺（桜井市） 総本山長谷寺文化財等保存調査整理事業

考古学担当

奈良県内を中心に、発掘調査並びに整理作業、調査報告書作製等を行う。

伝世資料担当

国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市） 所蔵資料のコンディション調査

平成18年度より継続している国立歴史民俗博物館所蔵資料のコンディション調査を実施する予定である。

保存科学研究グループ

文化財を後世に伝えるには、保存処理後に資料の形状や表面状態などを定期的に調査することが必要である。また同時に、資料の劣化進行を抑えるためには収蔵環境が適切であるか否かを調査することも重要である。これらの調査の結果から、今後の改善策を提案している。

受託事業としては、過去に保存処理を実施した大型木製品の保存状態調査や、博物館の展示・収蔵環境調査を行う予定である。

奈良市補助金事業 仏教民俗資料の収集調査

奈良市内所在石造文化財の調査（13）

奈良市内における石造物の悉皆調査は平成元年に報告書が刊行され、重要な石塔資料が多数報告された。これらの石造文化財の詳細な調査は文化財保護や歴史研究に重要な素材を提供するが、個別具体的な調査が実施されたものは少ない。

令和5年度も令和4年度に引き続き、奈良市内に所在する古式の宝篋印塔や五輪塔などについて詳細な調査を行い、情報開示を行う予定である。

調査・研究の成果については『元興寺文化財研究所研究報告』に掲載し、奈良県内の教育委員会、図書館、博物館、大学をはじめとする全国の文化財関連機関に配布する。

3. 文化財の分析事業

保存科学研究グループ

文化財を自然科学的手法で分析することによって、その材質や構造等を明らかにし、産地や年代等を推定することができる。資料の顕微鏡観察、金属や顔料の蛍光X線分析、漆や繊維の赤外分光分析等を行う。

4. 文化財の保存修復事業

文化財調査修復研究グループ

伝世資料担当

国宝・重要文化財を含む伝世品資料、古文書・絵図面等の紙資料の保存修復を実施する予定である。

埋蔵文化財保存研究グループ

木製品担当

重要文化財を中心とする出土木製品の保存修理を行う予定である。

金属製品・土器担当

<金属製品>

国宝・重要文化財を中心に実施する予定

<土器>

重要文化財を中心に実施する予定

5. 研究会、展覧会、講演会の開催及び開催支援事業

秋季特別展 『菅原遺跡の発掘調査成果について』（仮）

※宗教法人元興寺と共催

開催期間 10月21日（土）～11月12日（日）

開催場所 元興寺法輪館

令和2（2020）年度に受託事業として発掘調査を行った平城京の西方・奈良市疋田町で非常に特殊な古代の寺院関係遺跡が発見された。大規模な回廊、塀で取り囲まれた区画と、その中心に推定16基の柱穴が円形に並ぶ類例のない建物の遺構である。

当初、この中心建物がどのような構造であったのか復元は非常に難しかったが、円形の多宝

塔を想定する円堂建築の可能性を提示した。また、この遺跡の年代としては、出土した軒平瓦や土師器杯から8世紀半ばに位置づけられ、遺跡の時期や立地、性格を考えると行基の供養塔の可能性が考えられている。

令和3年度から令和4年度にかけての菅原遺跡の整理作業を終え、本年3月末に同遺跡の発掘調査報告書を刊行する。

この機会に菅原遺跡の発掘調査の成果報告の場として秋季特別展で取り上げ、会期中に講演会も開催する。

文化講座の開催 実践文化財学 講座編

「文化財から歴史を読む」

当研究所が創立以来半世紀以上にわたって行ってきた元興寺の歴史や文化財に関する人文、考古、保存科学などの各分野からの多面的調査や研究の蓄積と最新の成果を、研究所所員がわかりやすく報告する。

開催日 6月14日(水)、7月12日(水)、9月13日(水) 10月11日(水)
11月8日(水)、12月13日(水)、の計6回
場 所 総合文化財センター・ルーパ館3階
時 間 13:30~15:00

展覧会等の開催支援及び文化財活用事業

文化財企画活用担当

展示支援事業としては、昨年度に引き続き「発掘された日本列島2023」の展示支援事業と大阪大谷大学博物館の企画展示の展示支援事業を予定している。また、各部門における保存台・保存箱の作製について統括・作製を行っており、国宝沖ノ島祭祀遺跡出土品や重要文化財福岡県稲童古墳群出土品、新宮市阿須賀神社所蔵懸仏等、各部門の保存処理・修復に伴う保存台・保存箱作製を予定している。

なお、これまでも三次元計測を利用した復元・複製品の作製も含め積極的な事業展開を進めており、令和5年度も、宮内庁正倉院事務所から委託を受けて正倉院宝物の三次元計測ならびに保存台作製業務を予定している。

また、昨年度に現地保存応急処置を行った「一般国道312号線大宮峰山道路事業関係遺跡(幾坂古墳群) 漆塗り革盾保護養生業務」を引き続き行うとともに、遺構の取り上げにも積極的に対応していく。

『発掘された日本列島2023』展

平成20年度から受託している文化庁と開催各館とが主催する『発掘された日本列島』展の開催と運営に関する業務について、令和5年も継続して実施予定であるが、現時点では入札公告を待っている状況にある。

業務内容は、本展出陳物の集荷・納品に係る梱包・輸送、ポスター・リーフレットなどの印刷・発送、出陳物の点検・展示・撤収、展示パネル・キャプションのほか関連資料の管理、開催予定各館との調整など多岐にわたる。

元興寺文化財管理業務

世界遺産元興寺と所有文化財の管理指導として、境内施設環境の管理と法輪館の展示管理業務等を行う。

6. 報告書、書籍等の刊行

『元興寺文化財研究所研究報告2023』（1,300冊）の刊行
『平城京右京北辺三坊五・六坪発掘調査報告書』（奈良市）
『平城京左京五条五坊十一・十四坪発掘調査報告書』（奈良市）

7. 体験活動

施設見学等 研究、調査成果を社会に還元し、文化財の保護の重要性に対する深い理解と関心を高めることを目的として、博物館実習、職場体験、施設見学を受け入れる。総合文化財センターにおいては、定期的に一般個人向けの施設見学会を開催する。開催日は、6月14日（水）、7月12日（水）、9月13日（水）10月11日（水）11月8日（水）、12月13日（水）、の計6回を予定している。

なお、団体見学については、業務に支障の無い範囲で日程を調整しながら随時受け入れる。

8. その他

（一財）日本宝くじ協会 令和4年度公益法人等が行う公益事業への助成事業

平成15年度に日本宝くじ協会の助成により導入した文化財輸送・診断啓発広報車（シバラ1号）は、全国各地で文化財の調査・診断を行い、脆弱で修復が必要な文化財を破損させることなく安全に輸送してきたが、導入から18年を経てシャーシ腐食等の劣化が進み、今後の運用が困難となり令和3年10月に廃車した為、代替車両として輸送環境モニタリングシステム、荷室内空調システム、免振床、エアサスペンションを備えた美術品専用車を申請している。

助成申請額 23,700千円（助成率100%）

※登録諸費用は助成対象外